

平成24年度 新潟市立図書館施策・事業評価シート

シートNo.1

◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。
◆館の重点評価項目は、中央図書館が重点的に取り組んだ事業。

中心図書館名：中央図書館

区分	事業名	事業概要	実施結果	評価		
				自己評価	外部評価(%は外部評価者の割合)	
課題解決型図書館	◇全館共通評価項目	・市民に身近な生活課題解決のため、レファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	・レファレンスサービスのPRのため、レファレンスカウンターの表示を分かりやすく変更した。 ・レファレンス件数は3,808件で前年度(4,250件)より10%減少した。平成24年3月から議会図書室と連携し議員活動へのレファレンスを開始した。(依頼件数は3月で4件。) ・パスファインダー(テーマ別調べ方案内)を6テーマ作成し、ホームページや館内で提供した。 ・レファレンス事例を紹介する「レファレンス通信」を年2回発行した。	・特定テーマの資料や情報の調べ方・探し方を案内する「パスファインダー」作成では、社会情勢に合わせた内容や児童・学校向けの内容を盛り込み、充実度をはかった。 ・くらし4、児童4、ビジネス3、郷土10の計21テーマのパスファインダーが館内に設置してあり、来館者自身で調べられるようになって、簡易なレファレンスが減少したと考えられる。 ・身近な事例を紹介した「レファレンス通信」を発行することで、気軽に図書館に相談できることを知ってもらうことができた。 ・引き続き、インターネット等で得られる情報より、信頼性の高い資料・情報を提供できることを発信していく。	1 大変評価する。 45.5%	・「パスファインダー」の24年度のテーマは良かった。 ・レファレンスの改善は市民から期待されているので良い試みだった。 ・議員へのレファレンスを始めたことは良いことだ。もっとPRをして。 ・インターネットで調べて終わりではなく、本などきちんとまとめた資料に当たって確認する姿勢がこれからの時代はとて大切なので取組を評価する。 ・インターネット関係に重点を置いて質の向上を望む。 ・ホームページのパスファインダーがYahoo!等の検索に引っかかるようになると、もっと図書館に興味を持つ人が増えると思う。 ・議員へのレファレンスの具体的な効果・反応はどうだったか。 ・議員だけでなく各種団体等へも働きかけたらどうか。 ・子ども自身が調べる習慣が身に付くように、子ども向けの充実も望む。 ・次のステップでの図書館とのつながりが感じられない。 ・中央のレファレンス件数の10%減は、理由が他にもあるのではないか。 ・職員の研修がもっと必要である。
	◆館の重点評価項目	・市民ニーズを把握し、新たに専門機関や関係機関と連携して、講座や相談会を実施し、利用の拡大を図る。	・ビジネス支援セミナーを経営者、ビジネスパーソンを対象に、マーケティングをテーマとしたセミナーを各1回実施。また、仕事に役立つデータベースセミナーを1回実施した。 ・就職活動中の大学生・専門学校生を対象に就活セミナーを1回実施した。	・新たな相談会を行うことはできなかったが、就職活動中の大学生や専門学校生を対象に、新潟市の学生就活相談デスクを担当している「広報しえん」と連携して、就職活動に役立つセミナーを実施した。 ・対象を、ビジネスパーソンや学生・専門学校生に拡大して、セミナーを実施することで、図書館を利用する機会の少ない層にビジネス支援サービスをPRすることができた。	1 大変評価する。 30%	・就職活動支援は良い企画なので続けてほしい。 ・セミナーを4回開催したことは頑張ったのではないかと。 ・ビジネス支援サービスは、図書館として一層研究が必要である。 ・方法の再考が必要である。 ・図書館利用が少ない中堅男性へ、ビジネス支援以外にも働きかけが必要だ。 ・学生だけでなく第二新卒や転職者にも広げてほしい。 ・次のステップでの図書館とのつながりが感じられない。
分権型図書館	◇全館共通評価項目	・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を実施する。 ・特に中央図書館所在地域の資料収集に努める。	・特別コレクション展示を4回実施した。 「會津八一を支えた高橋きい子と沼垂」展(H24.5.3~8.2) 「絵はがきから見たなつかしの新潟」展(H24.8.2~12.4) 「ふるさとゆかりの作家」展(H24.12.6~H25.3.5) 「生誕120周年 鷲尾雨工」展(H25.3.7~4.30) ・地元新聞に掲載された郷土資料や自費出版資料を調査し、中央区に関する図書やパンフレットの収集を行った。	・特別コレクション展示を行い、新潟ゆかりの人物や資料について、広くPRすることができた。 ・「會津八一を支えた高橋きい子と沼垂」展では、地域の歴史研究グループや東地区公民館と連携・協力して、講演会を開催し、内容を深めることができた。 ・展示を機に寄贈を受け、郷土資料の充実をはかることができた。	1 大変評価する。 73%	・特別コレクション展示は、何度でも続けてほしい。 ・講演会を今後も更に充実させてください。 ・いつも楽しみにしている。 ・中央図書館をはじめ各区も地域資料の収集は素晴らしい。 ・図書館が行わなければ散逸してしまう資料収集は重要な事業である。 ・新潟市ゆかりの人物を取り上げることは大切である。 ・県立図書館も資料収集は行っているが、市として特色あるテーマ分野の選定が必要。
	◆館の重点評価項目	・6つの図書館協議会の全委員を対象に意見交換をしていただき、図書館の事業についての理解と関心を深めていただくとともに、話し合われた内容を図書館の運営に活かす。	・11月12日(月)午後1時から、中央図書館3階ビーンズホールにて「平成24年度新潟市図書館協議会合同情報交換会」を実施し、中央・豊栄・亀田・新津・白根・西川図書館協議会から34名の委員が参加した。 ・内容は、草谷桂子氏(元静岡県立図書館協議会副会長)の基調講演と、分散会(基調講演を聞いて、情報・意見交換)を行った。	・3回目の開催となった合同情報交換会では、10月に閉館した亀田図書館協議会を加えた計64委員中35名が参加した。 ・参加者数は前年度とほぼ同じであったが、参加率は55%で17ポイント減少した。 ・第1部の基調講演では、協議会委員・サポーターとしての立場から考えた図書館の運営についての話があり、参加者にとって身近な内容であったと思われる。 ・第2部分散会では、講演を受けての感想など、第1部と連動した形での意見交換を図った。 ・委員の視点に立ったテーマや会の進め方をさらに検討し、多くの委員から参加していただいて図書館運営と図書館協議会活動の活性化に向けた交換会とすることが今後の課題である。	1 大変評価する。 36%	・内容は良かった。 ・他館を知ることができる。 ・他県の取組を知ることができて色々なヒントをもらい勉強になった。 ・協議会委員として大切な事案に直面していると思った。 ・他県の取組でも効果がありそうなものはいくらかでも導入してみたら良いのではないかと。 ・情報交換会で検討された結果を、各図書館にフィードバックするシステムを作ってほしい。 ・参加率を評価に取り入れる意味が不明である。 ・参加できなかったので交換会を増やしてほしい。 ・時間的に講演会と情報交換の両方を行うのは難しいと思う。
学・社・民融合型図書館	◇全館共通評価項目	・1歳誕生歯科健診会場において、赤ちゃんと保護者に絵本の読み聞かせを体験していただく「ブックスタート」を実施する。	・中央図書館が所管する4区(東区・中央区・江南区・西区)では、4,420人にブックスタートを実施した。実施率は92%であった。	・関係各課・ボランティア等の協力により、順調に運営することができた。 ・2年目にあたり、会場により職員一人体制を実施するなど効率的な運営に努めた。 ・ブックスタートボランティアステップアップ講座を開催しボランティアの技術向上に努めた。	1 大変評価する。 91%	・親子に喜ばれている。 ・ブックスタートは良い企画なので継続・充実を望む。 ・順調に進んでいる。 ・将来へ期待している。 ・赤ちゃんの時から本に親しむことは素晴らしいことである。 ・親子一緒に本を読むことは大切なことである。 ・関係者が熱心に取り組んでいる。 ・同じように小学校入学時でもできないか。 ・ボランティアさんのステップアップも続けてほしい。 ・ボランティアのスキルアップを実習重視で行った方がよい。 ・区毎のボランティア間の繋がりも考えた方がよい。
	◆館の重点評価項目	「新潟市子ども読書活動推進計画」の中間年度にあたり、「読書が育む子どもの未来」をテーマに教育フォーラムを開催し、家庭・学校・地域と連携して、子どもの読書活動をさらに推進する。	6月1日に市民プラザで開催し、536人の参加があった。慶應義塾大学片山善博教授の講演やパネルディスカッション・実践発表をとおし、子どもの読書環境整備の重要性について理解を深めてもらうことができた。	・フォーラムの開催により、新潟市の取組や読書環境整備の重要性について理解を深めてもらうことができた。また、アンケート結果も非常に好評だった。	1 大変評価する。 55%	・子どもの読書習慣は大切である。 ・講師の話がわかりやすく、行政と図書館の在り方を考えさせられた。 ・講演が良かった。 ・著名な講師を招いて、市長も参加し読書について考える良い機会となった。 ・家庭・学校・地域の連携がテーマだったので参加者のバランスが取れた方が良かった。
パートナーシップ型図書館	◇全館共通評価項目	・市民との協働をいっそう推進するためボランティア・教育機関や民間団体と連携して事業を行う。	今年度はボランティア団体のほか新潟薬科大学や新潟デザイン専門学校等教育機関を含む20団体と延60件の共催事業を実施した。	・中央図書館の知名度と恵まれた施設を使用し、さまざまな分野の教育機関、民間団体やボランティアと連携する機会をとらえて、図書館の利用を拡大するよう事業を展開した。なかでも「3・11福島を忘れない！」実行委員会と共催で写真展と上映会を開催し被災地の情報を発信することができた。 ・庁内15の所属と連携した展示を行い市の情報を市民に発信した。	1 大変評価する。 64%	・3・11に関する写真展など民間団体との連携事業は大いに評価する。 ・図書館からも働きかけて共催を行っていることがうかがえる。 ・大学との共催も有意義だった。 ・利用者拡大にもつながる。 ・回数実施の努力は認めるが内容についても一層の検討を期待している。 ・子どもから大人まで参加するイベントができるのが図書館ではないか。
	◆館の重点評価項目	・開館5周年を記念して実施する事業に、ボランティアや民間団体と連携したイベントを行うことにより、市民との協働を推進する。	平成24年度は年間を通して開館5周年をふまえて共催事業を行った。なかでも「記念事業ほんぼーとアート祭」では専門学校と、また文学講座や古本市など民間団体・市民ボランティアと共催し市民との協働を進めた。	・開館5周年の記念事業「ほんぼーとアート祭」の1つとして「ヤングアーティスト作品展」を新潟デザイン専門学校と共催したり、文学講座「新潟ゆかりの文学」、「ほんぼーと古本市」では中央図書館で活動されている市民との協働を引き続き進めることができた。	1 大変評価する。 45%	・古本市が効果的で好評だった。 ・もう少し大規模に周年記念事業を行っても良かった。 ・講演会の他にも色々な事業があつて良かった。 ・記念事業やイベントをきっかけに図書館に足を運ぶ人も増えると思う。 ・「アート」をキーワードにしているが理由と目的が不明確である。